



第 120 号

編集 P T A 係
発行 長野県下伊那農業高等学校 P T A

本年度 P T A 活動について

P T A 会長 知久 隆 文



平成三十一年度から令和元年度と元号が変わり、さあこれからだと思っていた P T A 活動も残すところあと僅かとなり、自分が思い描いていた活動ができたのか振り返ってみたいと思います。
四月の幹事会・代議員会より前

会長よりバトンタッチし、本格的に新年度の活動がスタートしました。せっかく会長職を任せて頂いたのであれば、自分なりに思い描いた P T A 活動を周りに迷惑にならない程度に挑戦してみようと思いい、「生徒・先生・保護者」三者一体となって下農ライブを全力で楽しむ」この目標を自分自身の課題としてみました。昨今、下農の学校としての雰囲気は、生徒と先

生方の頑張りもあり各活動が全体的に活気に満ち溢れ、地域との連携もマスコミ媒体を通して多く紹介されるようになりました。そこで、どちらかといえば各会議や三者面談などでしか学校に来られない保護者の皆さんに、学校の行事等を通してもっと多くの方々に参加してもらえよう、とりあえず身近なクラス役員の方々と先生方の協力を頂きながらやってみ

た、P T A 研修旅行につきましても多くの方にご参加頂き、先生と保護者の親睦を深めてもらえ

る良い機会になったかと思ひます。こちらと呼びかけ方によってはもっと多くの保護者にも参加してもらえなと感じました。クラス単位では自分の子供のいるクラスでしか関わられませんが、役員と先生に頑張ってもらい、これもまた多くの保護者に参加頂き、子供たちにも楽しいと言ってもらえたイベントを今年度だけで二回も出来たことはとても良かったと思ひます。
最後に、この一年を通して感じたことは、子供たちと共にいろいろ関われる学校生活は、高校が最後になると思ひます。保護者の



広く深く学び

活躍する下農生

校長 村澤 博富美



記念事業の成功が叶うことを願うばかりです。
ところで、本年度も 2 学期末

校生活を送るうえで大切な前提条件です。学校の話題が親子のコミュニケーションを豊かにし、親が学校や子どもをよく理解している様子が、この数値に表れているものと思われま

トコンテストには県代表として出場、HONDA エコマイレッジチャレンジでは農業機械班カーが完走、毎日農業記録賞論文コンテストでは優良賞を受賞、国際協力エッセイコンテストでは JICA 東京センター所長賞を受賞、全国レベルで資格取得実績を顕彰されるアグリマイスター

制度では 46 名が認定、内 1 名が最も優れた特別表彰受賞と校挙に違がありません。
また、地域に密着した本校では、次代の南信州人を育成する地域創生の教育が必須です。飯

田市主催「学輪 EIA フィールドスタディ」への参加、鹿皮を使ったレザークラフトのブランド化、世界的潮流を先取りした SDS の実践学習、ドローンの農業利

と「地域での学び」を両立させた実践教育に力を入れてい

本年度も高い専門性を発揮しました。農業クラブ全国大会南東北大会では果樹班が水温食品認証による果樹産物活性化プロジェクトを発表、同農業鑑定

競技会では 3 名が全国優秀賞を受賞、北信越アロック大会長野大会ではアグリ研究班畜産部が信州黄金シャモ普及プロジェクトを発表、全国産業教育フェア新潟大会フラーワーアレンジメン

さらに、世界的視野から日本や地域を見つめるグローバル教育を推進するために海外研修を推奨し、マレーシア研修 1 名、コスタリカ研修 1 名、カンボジアスタディ・ツアー 3 名が参加する予定です。
一方、学校でも授業公開の回数を増やし積極的に中学生・保護者への P R に努めるとともに、

全学科による課題研究発表会を新規に開催し、学科を越えて学習成果を学び合う有意義な場となりました。
このように多種多様な実体験をおして、生徒たちは逞しく大人へと成長して行きます。学校に留まらず、地域はもとより、海外まで飛び出しています。自分の意志で学びのフィールドはどんどん広がります。今後の下農生の活躍に期待が膨らむばかりです。

本年度の P T A 活動を振り返ると、先導する役員の方々の熱意のおかげで、活気溢れる活動となりました。特に研修旅行には、

昨年度の 2 倍の参加者があり、伊勢路の旅は、楽しく和気藹々とした、そして令和改元に相応しく神々しい旅となりました。

伊勢神宮参拝で祈願した百周年

校」であることは、充実した学

P T A は「保護者の学校」とも言われます。保護者の方も積極的に関わり、互いに楽しみながら、子どもを応援し、成長を見守り、学校と手を携えて、米

えある下農を盛り立てていただければ幸いです。

会務報告

事務局長 森 本 秀 夫

会員の皆様には日頃よりPTA活動にご理解を賜り、ご協力いただき誠にありがとうございました。ここに、今年度の会務報告をさせていただきます。

入学式後、一学年の学級代表員と本会役員の選出を正副会長立会いのもとお願いしました。4月中旬に第一回代議員会が開催され、30年度事業・会計決算・監査報告、今年度事業計画・会計予算について慎重審議のうえ承認されました。役員交代に際し、木下秀樹会長、西川智子副会長に感謝状が贈呈され、労をねぎらいました。5月25日にはPTA総会が開催されました。午前中に授業参観が行われ、午後の総会前の教育懇談会では、腰塚勇人氏をお招きし、「命の授業〜ドリー夢メーカーと今を生きる〜」との題で講演していただきました。今年度は保護者の皆様だけでなく、全校生徒も一緒に聴き、氏の一言一言に感銘を受けたという感想が多く寄せられました。午後の総会では代議員会で承認された議事が報告されました。その後、学年・学級PTAが開催され、全校約

120名の会員が出席し、一日の日程を終えました。6月には合同部会が開催され、生活指導部・教育広報部、地区懇談会の計画立案をしていただきました。7月上旬の地区懇談会でも地区ならではの話題で盛り上がりしました。8月下旬に実施された令和初の研修旅行ではお伊勢参りに、保護者・教職員、81名が参加し親睦を深めました。2月中旬には第二回代議員会が開催され、今年度の事業・会計決算中間報告が承認されました。一年間のPTA活動を通して、会員の皆様には大変ご支援とご協力を賜りました。来年度はいよいよ学校創立百周年を迎えます。学校では、記念の学習施設が建設されています。混合棟の改修工事も進んでいます。また、保護者の皆様と教職員の連携が一層必要になります。今後ともよろしくお願いいたします。一年間ありがとうございました。



PTA教育広報部の活動を振り返って

教育広報部長 澤 柳 徹

立春を過ぎ新たな節目を迎えつつ、時の早さに驚くばかりの今日この頃です。教育広報部長を務め早一年が過ぎ子供たちの成長を身近に感じる事の出来た一年でもありました。さて、教育広報部では、教育懇談会をはじめ、研修旅行、生徒諸活動助成、PTA会報の発行等の活動を行ってきました。

命の大切さと生きる力を与えてくれた感動的なひと時でした。PTA研修旅行では伊勢方面と少々遠方ではありましたが、多くの方々に参加して頂き、伊勢神宮参拝、おかげ横丁散策、など楽しい時間を過ごし、先生方、父兄の方々との懇親を深める事が出来た有意義な研修旅行となりました。生徒たちの活動状況では、運動班の活躍や、稲丘祭を始めとした各科学研究の実績発表

生活指導部活動報告

生活指導部長 佐々木 康 司

本年度の生活指導部の活動を振り返りますと4月の部会にて活動目標・活動計画を部員の皆さんと確認、6月の部会で具体的な活動の計画を立案致しました。また、7月4日におきまして稲丘会館にて下伊那地区高校生徒指導拡大連絡協議会が開催され担当の先生と参加しました。下伊那全年度の高校の生活部担当の方々や行政・JRなど多くの関係

など、日頃の活動内容や成果を見る事が出来、その活躍ぶりを新聞紙面でも多く取り上げられ励みになった事と致します。子供たちの意欲的な学校生活と課題へ取り組む真摯な姿勢を感じる事が出来ました。先生方との日頃のコミュニケーションや信頼関係で結ばれている証と感謝する次第です。役員活動を通して、学校の活動、生徒の様子にふれる事で、私自身の成長にもなったと思います。最後になりますが、会長を始め役員の皆様、先生方の指導により教育広報部の活動を無事に終えることが出来ました。昨年度に副部長の引き継ぎを受け本年度の部長まで、自分に出来るか不安と心配でしたが、担当の先生や役員の方々のご指導、部員の皆様のご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。最後になりますが下農の今後のPTA活動が発展される事、創立100周年記念が盛大に挙行される事、生徒さん達が社会で活躍される事を願います。



事に感謝申し上げます。今後とも下伊那農業高校とPTA活動がより一層発展することを願います。今年度の活動報告とさせていただきます。大変お世話になりました。

稲丘祭を振り返って

自治活動部長 清水 茂子

「Restart」愛がなくては始まらない」をテーマに令和元年度の稲丘祭は新しいスタートを意識しました。文化祭実行委員長松尾玲佳さん、副委員長田中夢翔君、校友会長伊藤愛夏さん、副会長三嶋蒼生君のもと、係を決め、素晴らしいチームワークを見せられました。

新しい試みの一つは学科展を体育館に集め、体験ブースを作ったことです。今までの教室展示を第一体育館に移動し、展示のほか体験イベントを実施することを提案しました。「例年と変える」ためには大きなエネルギーを必要とします。生徒や先生方に理解してもらうためには緻密な計画と協力が必要です。7月18日の第1回の稲丘祭ガイダンスでテーマや今年の変更点を提案しました。今年9月19日に第2回のガイダンスも設け、さらに具体的な内容を説明しました。「君に会いたい稲丘祭」の企画では缶バッジを作成、全校生徒が番号で偶然の出会いを楽しみました。

11月1日(金)の前夜祭では校内企画で各クラスのステージ発表を実施。昨年は日曜日に

実施したところ公欠の班活動が多かったため、今年は金曜日の前夜祭でクラスステージを実施しました。各クラス力が入り、衣装にもこだわり、順位を付けがたく、審査員を困らせました。

11月2日(土)、一般公開では大勢のお客様が見えました。リストバンドを配布し人数を確認、イベント広場を生徒昇降口前から職員玄関の前に移動し、広々とした空間でレンタルしたトラックで特設ステージ企画、3年の各クラスの出店、ヤンマー、クボタのトラクター等の「働く車」の機械展示などを実施。校舎内は動物の森をテーマに本格的な装飾、力が入りました。農産物販売では混雑解消のための整理券を発行し、1度に入場できる人数を制限しました。

来場者の駐車場も心配されましたが、好天と係の臨機応変の誘導に助けられ、無事終了しました。2020年に創立100周年を迎えます。今年も100周年記念の展示を1回渡り廊下に展示しました。工夫を凝らしたアイデアに感心しました。多くを学び生徒が作り出す稲丘祭になりました。



令和元年度卒業生の進路状況

(令和2年3月卒業予定者)

令和2年1月31日現在

卒業生数				合計	アグリ サービ ス	農業 機械	園芸 クリ エイト	食品 化学
男子	76人			計	161	40	39	41
女子	85人	人数 (人)	比率 (%)	男	76	8	38	18
合計	161人			女	85	32	1	23
就職者 男子34人 女子24人 小計58人 比率 36.0%	管内	49	30.4	男	30	1	25	3
				女	19	9	1	4
	県内	2	1.2	男	0	0	0	0
				女	2	0	0	1
	県外	3	1.9	男	2	0	1	1
				女	1	1	0	0
	公務員	3	1.9	男	2	0	1	0
				女	1	0	0	1
自営他	1	0.6	男	0	0	0	0	
			女	1	0	0	1	
進学者 男子42人 女子60人 小計102人 比率 63.4%	四年制大学	16	9.9	男	8	0	3	3
				女	8	2	0	3
	短期大学	22	13.7	男	4	2	0	2
				女	18	8	0	3
	県農大等	7	4.3	男	5	1	0	4
				女	2	0	0	2
	専修学校等	57	35.4	男	25	4	8	5
				女	32	12	0	9
未定	1人	0.6	男	0	0	0	0	
			女	1	0	0	1	

進路状況について

進路指導部長 中島 かおる

今年度三学年の進路状況は、三月まで受験する生徒一名を含めて左記のとおりです。就職に関しては、公務員希望者が九名と非常に多く、最終的に市町村・自衛隊で三名の内定をいただきましたが、警察・消防は厳しい結果となりました。現二年生も希望者が多いようですので、今からしっかりと対策を立てていく必要があります。

一方、民間については、今年度の来校求人件数は管内・県内外ともに過去最高となり、ほとんどの生徒が一次で内定をいただくことができました。ただ、希望が集中した場合は、基礎学力の定着度が勝負の分かれ目となります。今年度から始まった「学びの基礎診断」の結果を踏まえ、学習指導にも一層力を入れた

と思います。今後、米中買増しも高く、合格するためには確

かな基礎学力が重要です。来年度から始まる大学入試の変更・見直しの動向を注視しながら、着実に学力を付ける必要があります。

また、先日、一・二学年の各クラスで三年生の進路体験談を聞く機会を設定しましたが、先輩の声に刺激を受けて進路相談に来る生徒も出てきました。この三月は、進路について親子で話し合うことができる貴重な時期です。農学校校の強みを生かして、それぞれの希望する進路が実現できるように、是非力を蓄えてほしいと心から願っています。

易摩擦やオリンピック後の景気が気になりますが、地域で活躍できる人材の育成に地道に取り組んでいきたいと思っています。

次に、進路についてですが、今年度は進学者が百名を越え、全体の六割を上回るという、近年希に見る進路志向の強い学年となりました。管理栄養・幼児教育・調理・農業など、学科関連の学部学科に進学する者が多かった一方で、医療系・美容系志望者が増加したのが大きな特徴です。特に、医療・看護系への進学では、公募制推薦の倍率

- 就職先** 《公務員》飯田市役所、豊丘村役場、自衛隊
 《管内》旭松食品3、KOA七久里の杜3、JMC3、ジョイフルテン3、日本郵便信越支社3、エヌティーツール飯田工場2、コボックス2、シチズン時計マニュファクチャリング2、みなみ信州農業協同組合2、アジア電子工業、アルプス煙火工業、医療法人輝山会記念病院、NSKマイクロプレジジョン、オートボックス美濃、コシブ精密長野工場、シノダ設備、スタンレー伊那製作所、天龍、ふくやま、ヨシカズ、綿半ホームエイド、クロダ精機、小林製袋産業、三洋工具長野事業所、柴田科学、信南交通、多摩川パーツマニュファクチャリング、多摩川マイクロテップ、中部フォレスト、天恵製菓、パン工房 ローカリズム、三菱ふそうトラック・バス 南関東・甲信ふそう、南信州菓子工房、横浜ゴム、信州建装
 《県内》伊那バス、池の平ホテル&リゾート
 《県外》カクヤス2、全日警
- 進学先** 《四年制大学》松本(人間健康)愛知学泉(家政)、岐阜女子(家政2)、京都外国語(英米語)、京都光華女子(健康科学)、健康科学(健康科学)、昭和音楽(サウンドプロデューサー)、太成学院(看護)、東海学園(人文)、同朋(社会福祉)、名古屋音楽(音楽)、名古屋文理(健康生活)、日本福祉(スポーツ科学2)、酪農学園(農食環境)
 《短期大学》飯田女子(家政学科7/幼児教育学科6/看護1)、愛知医療学院(理学療法)、池坊(文化芸術)、中京学院(健康栄養)、名古屋経営(子ども3)、名古屋(英語コミュニケーション)、名古屋文理(食物栄養)
 《大学校》長野県農業大学校(総合農学4/畜産実科1) 愛知県立農業大学校(農学)、新潟県農業大学校(稲作経営)
 《専修学校》調理・製菓10、医療10、美容8、動物7、情報・工学6、公務員3、ゲーム3、プライダル2、音楽2、スポーツ1、外国語1、農業1、フラワー1、自動車1、自転車1